

# 深イ～話！

No.132

— 『日々の暮らしを楽しむ』 小林正観 著 —

2500年前、お釈迦さまは、自分のことについて相談されたときには親身になって相談に乗りアドバイスをしました。

しかし、自分のこと以外の問題を持ち込まれたときには、急に口と目を閉じて、瞑想に入ったそうです。

私はこれまで40年の間に、12万件の相談を受けてきました。最近では他人の問題を相談する人が増えてきました。他人の問題とは、

「子供が…」

「舅（しゅうと）が…」

「夫が…」

というものです。自分以外の問題を熊手（くまで）でかき集めてきていることに、本人は気がついていません。

たいへん面白いのですが、例えば、会社の同僚のことを、このように言う人がいます。

「私は言わないのだけれど、同期で入った10人のうち、私以外の方は、集まると会社の悪口を言っています。こういう場合はどうしたらよいでしょうか」

「今、あなた自身も、同僚の悪口を言っているのではないですか」

それが「家族」に置き換えられることもあります。

「私は言わないのだけれど、家のおばあちゃんが近所から帰ってくると、近所の悪口を言っている。こういう場合はどうしたらいいでしょうか」

これは、おばあちゃんの悪口を言っています。

本人が「どうしたらよいか」と相談していることのほとんどは、相談という形をとり、他人の悪口を言いに来ています。

「私は言わないんですけど…」と言いながら自分が悪口を言っているのです。そういう自分に“ちょうどいい”人が、周りを取り囲んでいるということになります。

何年か前に、熊本県の山鹿（やまが）温泉で、一泊の合宿を行いました。

そのとき5人くらいから「子供が…」などの他人の問題を質問されましたので、「**悩み苦しみと言う話は、他人を思い通りにしたいということ**」という話をしていました。



その翌日、朝食会場の大広間で、40代後半のご婦人と並んで食事をするようになったときに、「質問してもいいですか？」と、その奥さんが口を開きました。

「いいですよ」

「実は子供のことなのですが…」

そう言われた瞬間に、私は手で✕印を作り、「ブー」と言いました。

「ゆうべも言いましたよね。子供や他人のことをどうしたらいいかというのは、質問しているようですが、自分の思い通りにしたいということなのですよ」

この女性は、10秒ほど黙って食べていましたが、またこのように言いました。

「舅がですね…」

「ブー」

また1分ほど黙っていましたが、口を開いて、早口でこう言いました。

「職場の上司で自分に対してとても辛く当たる人がいるのですが、どうしたらいいでしょうか」

「ブー。やっぱりそういう話なのですね」

私はニッと笑い、このように答えました。

「いろんな人間関係の中で気に入らないという問題が、あなたをたくさん取り囲んでいるということですよ。気に入らない人間関係が、どうしてあなたを取り囲んでいるかわかりますか？」

「わかりません。いろいろな人から、ひどいことやきついことを言われて困っています」

「ゆうべからあなたを見ていましたが、一度も笑っていませんでしたね。そして、あなたの口から出てくる言葉は、問題をあげつらうだけの話題ですから、そばにいても楽しくありません。もし、家庭や職場で同じようなことをやっているのなら、あなたの周りの人はなるべくあなたに近寄ってほしくないと思います。

近寄らせない権限を持っている上司などは、あなたが近づいてこないように、いつも嫌味や皮肉、厳しく冷たい言葉を浴びせかけて、“近寄ってくるな”と言っているのではないのでしょうか。

あなたが、いつもトゲトゲした言葉、態度を投げかけた結果として、今の状況に囲まれているのだから、これからは、笑顔で楽しい話だけをしてみてはどうでしょう」

このように話をしたところ、この女性は一言も何も言いませんでした。

ほとんどの「悩み」「苦しみ」は自分自身の問題です。自分の心が狭かったり、思い通りにしたいという気持ちが強いだけなのです。